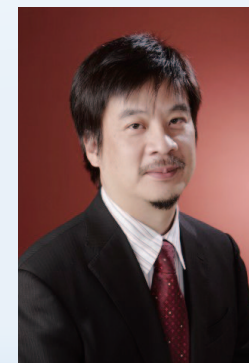


小児リウマチということばを聞いたことがあるでしょうか。関節リウマチは成人の0.7%程度のかたが病気を発症します。一方子どものころに発症するリウマチ疾患は全身の発熱を伴うもの、皮膚症状を伴うもの、関節破壊をおこすものなどのさまざまな病気の分類を含めても10万人に15人程度と言われています。きわめて稀な病気です。歩き方がへん、関節が腫れている、痛がるといった症状があっても、発症しすぐに診断がつくような典型的な症状や検査結果があるわけでもありません。ましてや体を痛がる、歩き方がおかしい、といってそれは子どもの日常にはよくあること、ですから、病気と考えることはまずないでしょう。しかし関節の腫れ、疼痛などから血液検査などをすすめることで診断がついた場合、また、成人に対する治

療と違って、成長期にあることにおいて子どもに特徴的な配慮が必要となります。患者さんの数はきわめて限られており、小児リウマチ専門の医師は全国でも50名程度しかいません。当院は成人リウマチ疾患が専門でありよくリウマチ医からの視点での評価を求められますが、大学の小児科の医師や、経験豊富なリウマチ専門の小児科診療グループ(関東地方では横浜市立大学)と相談の上治療をおこなうことがあります。診断が確定していれば関節リウマチの治療における特効薬であるメソトレキセート製剤や、生物学製剤の適切な導入で当院でもここ5年の間に、関節破壊をきたしていた小児リウマチの関節が修復した方や、通常のクラブ活動を行うことができるようになる方も見られるようになりました。

医学の進歩により以前は車いす生活になっていた関節リウマチの方をふつうの生活に戻せるばかりではなく、病気により通常の発達を妨げられるであろう子どもたちがふつうの成長を遂げられるようになってきたのです。もちろん患者さんが多い病気ではないのですが小児リウマチに悩む子どもたちが少しでも減るように私たちも協力していきたいと思えます。



にしおか内科
クリニックRA 院長
西岡 雄一

専門分野は関節リウマチ、痛風、気管支喘息、漢方薬治療。地元のファミリードクターとして、一般内科も診察。ラジオドクターとしても活躍中。